

取組名称	「CSOラーニング制度」による環境人材育成の取組み			団体設立後の経過年数	27年目
応募取組主体名称	公益財団法人SOMPO環境財団	活動地域	宮城・関東・愛知・関西・福岡/インドネシア	応募取組の活動年数	26年目
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

大学生・大学院生を、環境活動を行うCSO（市民社会組織、NPO・NGOを包含した用語）にインターン派遣する制度です。「長期間」（7か月間）「有償」（活動時間に応じた奨学金と交通費を支給）で、ユース世代が活動に集中して取組めるようサポートしていることが特徴です。参加者は期間中、CSO団体の事業内容に応じ、事務作業や情報発信のサポートや、環境調査研究やレポートの作成、環境イベントの企画運営などの活動を通じCSO団体の環境活動のリアルを学びます。また、定例会や宿泊合宿、関心テーマに沿ったミニプロジェクトの遂行で、同じ志を持った同世代の仲間たちとともに学び、刺激し合い、交流を深めるとともに、大学での学びへの活用、将来の進路検討、自己成長・自己実現を図り、財団の理念でもある木を植える人の礎を築きます。

実績の要旨

2000年に関東・関西の2地区13団体から取組みを開始し、2004年から愛知・宮城、2023年には福岡に実施地区を拡大して、現在は5地区42団体で毎年60名前後の学生を各地のCSOに派遣しています。26年目を迎え、2024年度までの修了生は累計1,391名となりました。海外ではインドネシアのジャカルタ近郊の環境NGOと連携して2019年に同様の取組みを始め、2024年度までに6期127名の修了生を輩出しています。修了生は「木を植える人」（*詳細後述）として企業・官公庁・CSOなどで活躍し、環境活動の普及に貢献しています。

取組評価の要旨	環境への貢献	ユース世代に、環境課題解決に向けた取り組みを行うCSO団体での実際の活動経験、ノウハウ・マインドを学ぶ機会を提供し、次世代の環境活動を担う人材を社会に輩出しています。
	社会・経済への貢献	制度修了生が環境人材として官公庁、自治体、企業、CSO等多様なセクターに就職をし、社会に貢献することに加え、CSOがユースと接点を持つ機会を創出し、CSO団体の活性化およびユース世代の接点強化にも寄与しています。
	地域資源の活用	宮城・関東・愛知・関西・福岡およびインドネシアで制度を実施しており、地域に密着して活動するCSOの下で、各地の里海・里山などの自然環境を活かした保全、教育活動を行っています。
	普及・汎用性	本制度の修了生からの紹介や大学の先生から授業でのご紹介、当財団のSNS等を活用した発信やSOMPOグループの媒体を活用した修了生の活躍等の紹介
	革新・ユニーク性	他に類を見ない「長期・有償」でCSOにインターンできる制度であること、奨学金の一部はSOMPOグループ社員の寄付により支給をし、SOMPO社員が個人として人材育成に寄与していること、次世代の育成に取組むCSOとのパートナーシップが最大の強みです。
	継続性	環境課題の変化や地区の特性などに応じ、CSO団体の入れ替えや開拓、情宣先の開拓を行うとともに、CSO団体や学生と密なコミュニケーションやフォローを行い、実施地区や派遣先団体数を拡大しながら25年間継続し、1,300名を超える修了生を輩出しています。

展望の要旨

当財団がハブとなり、CSOと連携して環境人材を育成し、制度の「成果」である修了生のプラットフォームを通じ、ネットワークの構築および連携・協働により、環境課題の解決を図っていきます